

発達障害児の就労をめざしたライフスキルの獲得 ～放課後等デイサービスにおける調査から～

○康一焯（早稲田大学大学院梅永研究室 修士2年）

梅永 雄二（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育心理学専修）

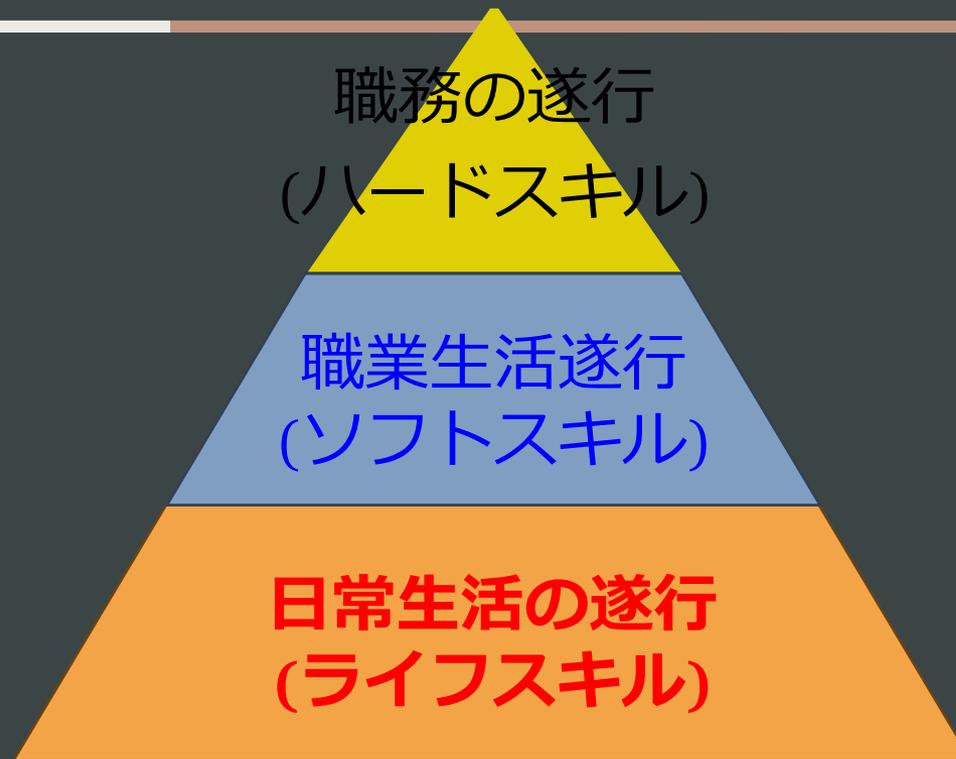
目次

背景—成人期の発達障害者の困難

ハードスキルだけではなくソフトスキル
就労面だけではなく、生活面の問題

ソフトスキルは子どもの時に獲得しておくべき
ライフスキルの延長線上に位置する

背景



背景—放課後等デイサービスでの キャリア教育

- 放課後等デイサービスでは、ライフスキルの指導や職業教育が取り入れられているところも増えている
- 効率的な指導や支援ができるように、どのようなライフスキルが不足しており、またどのような方法でライフスキルを獲得すべきかを検討するためアセスメントが必要

背景—BWAP2

Becker Work Adjustment Profile

ASD や ADHD、SLD 者の職場適応のアセスメント



早期から小学校や放課後等デイサービスなどでBWAP2の4領域63項目を評価し、発達障害児のライフスキルの獲得現状を把握し、個別指導計画を立てることによって、将来の自立につながる可能性が高くなると考える。

背景—BWAP₂の領域

4つの領域から、就労アセスメントをしていく

① **仕事の習慣・態度** (HA : Work Habit/Attitude)

身だしなみ、出勤率、意欲、仕事への姿勢などを評価

② **対人関係** (IR : Interpersonal Relationship)

社会的関わり、情緒の安定、協調性 職場での社会的やりとりを評価

③ **認知スキル** (CO : COgnitive skills)

読解力や計算力、判断力など、日常生活における知的なスキルを評価

④ **仕事の遂行能力** (WP : Work Performance)

作業スキルや、作業を行う上で必要なスキルを評価

背景—BWAP₂の領域

0～4点の、5段階で評価をする

0点：不合格

活動や課題遂行が全くできない

1点：芽生え（低）

活動を行うがうまくできない、満足にいく結果にならない

2点：芽生え（高）

活動をある程度遂行することができるが、改善の余地がある

3点：合格

活動を十分に行うことができ、満足のいく結果

4点：ストレングス

日常的・習慣的に活動を遂行し、その遂行力が並外れて優れている

本研究の目的

- 本論文では放課後等デイサービスと特例子会社で集計したデータと比較をすることによって、就労に必要な職業準備性を見出し、ライフスキル指導の重要性を検討していく。また、今後放課後等デイサービスで実施するライフスキルにおける指導内容について検討していくことを目的とする。

方法

・ 対象者

- ・ X放課後等デイサービスに所属している12歳～18歳の知的障害、発達障害の生徒27名
- ・ Y特例子会社に勤務している成人期知的障害者、発達障害者150名

・ 手続き

- ・ X放課後等デイサービス及びY特例子会社の対象にそれぞれBWAP₂を実施し、検査結果を個人情報特定されない形式に変換し、Excelデータとして回収した。
- ・ データをExcelを用いて分析した。

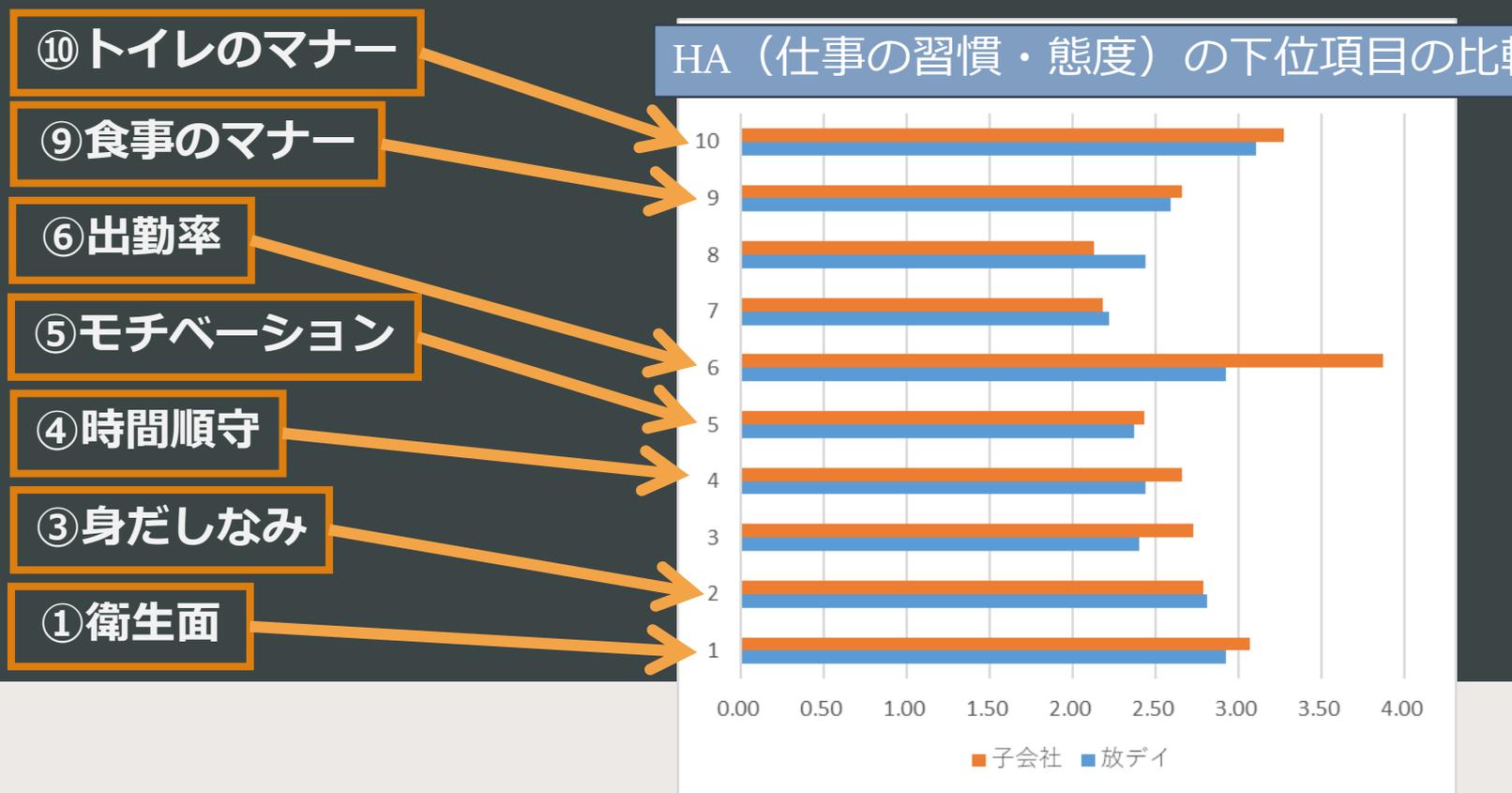
結果① X放課後後等デイサービスとY特例子会社との領域間の比較

	放課後等デイサービス群		特例子会社群		t 値
	M	SD	M	SD	
HA 仕事の習慣・態度	2.63	0.30	2.78	0.52	-0.82
IR 対人関係	2.52	0.47	2.28	0.58	1.13
CO 認知能力	3.02	0.51	2.71	0.49	1.85
WP 仕事の遂行能力	2.53	0.34	2.52	0.41	0.05

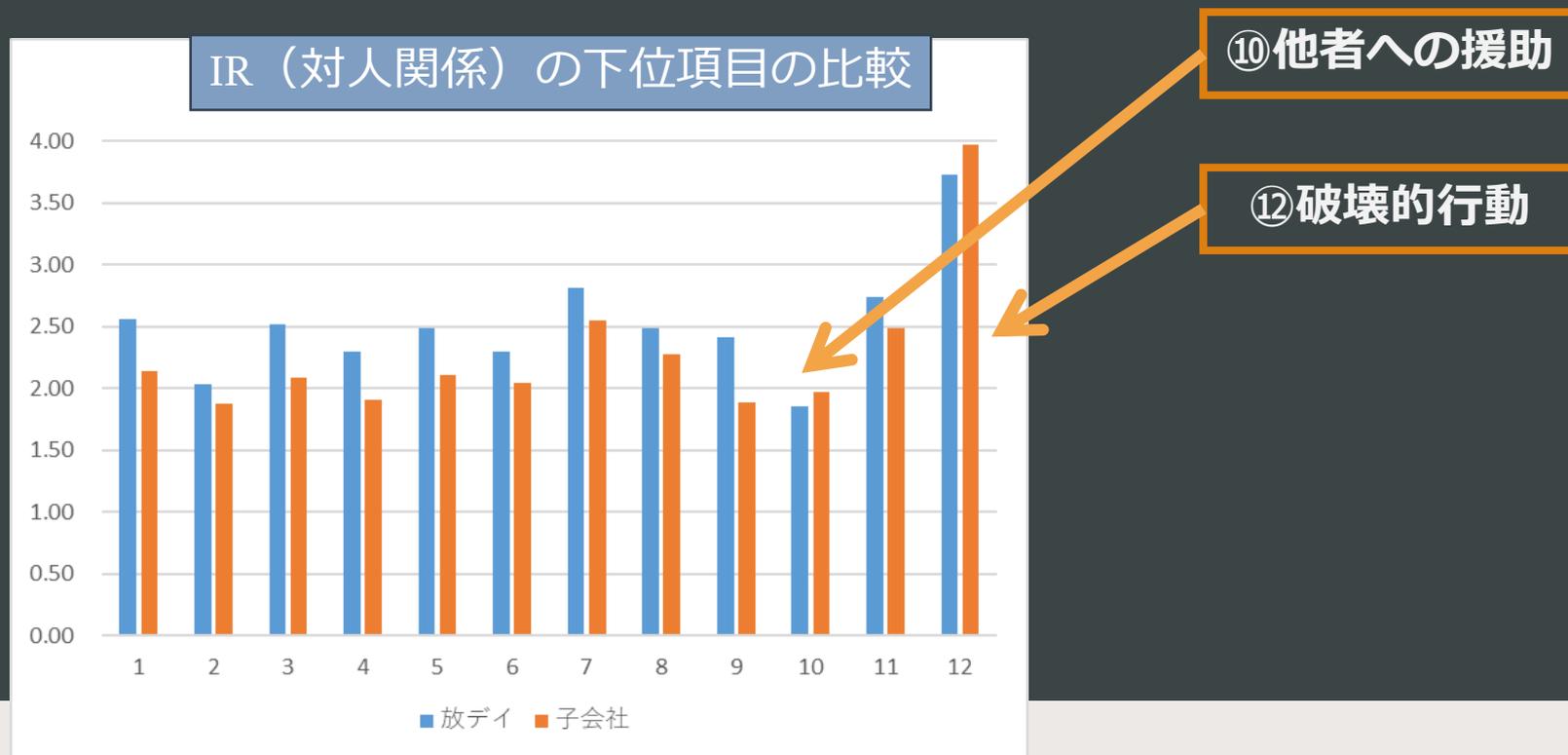
* p < 0.05

- 両群で5%水準において対応のない t 検定を行った結果、全領域において両群の間に有意的な差が見られなかった
- 放課後等デイサービス > 特例子会社：IR（対人関係）、CO（認知能力）、WP（仕事の遂行能力）
- 特例子会社 > 放課後等デイサービス：HA（仕事の習慣・態度）

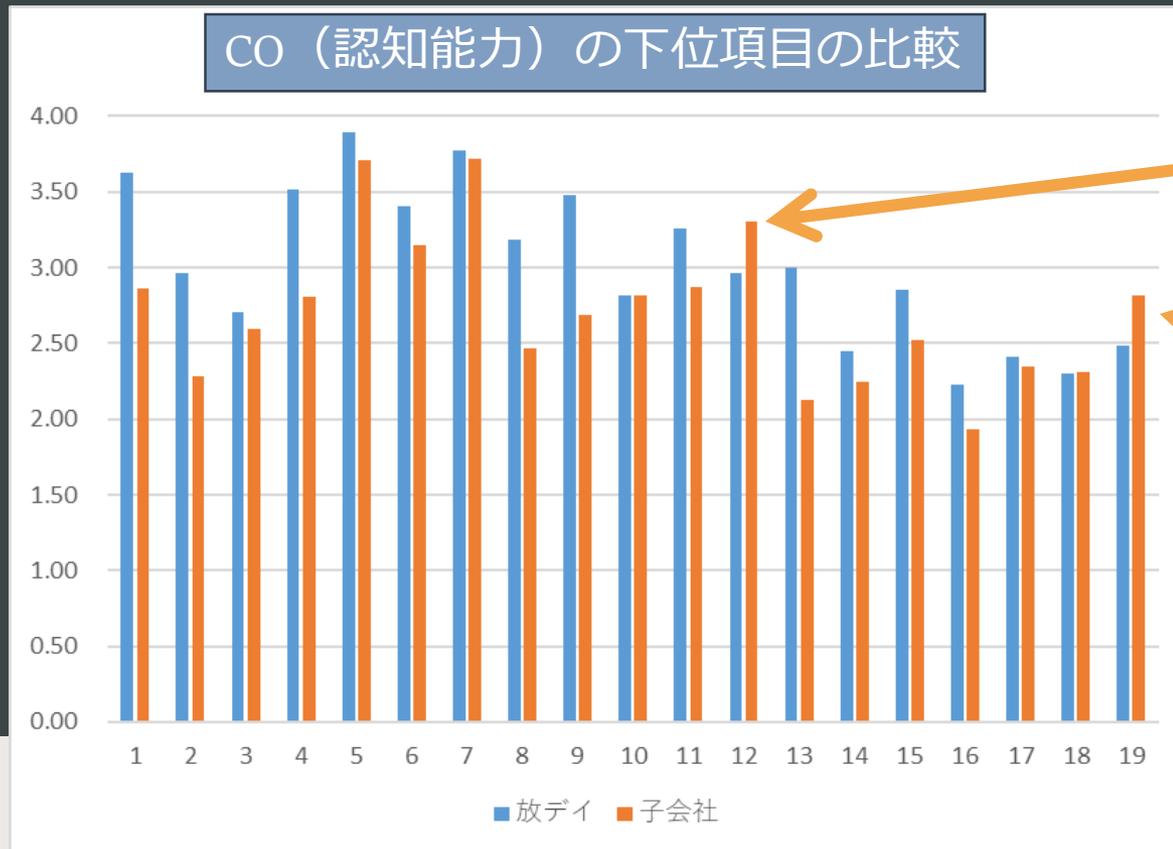
結果② X放課後等デイサービスとY特例子会社での下位項目間の比較



結果② X放課後等デイサービスとY特例子会社での下位項目間の比較



結果② X放課後等デイサービスとY特例子会社での下位項目間の比較

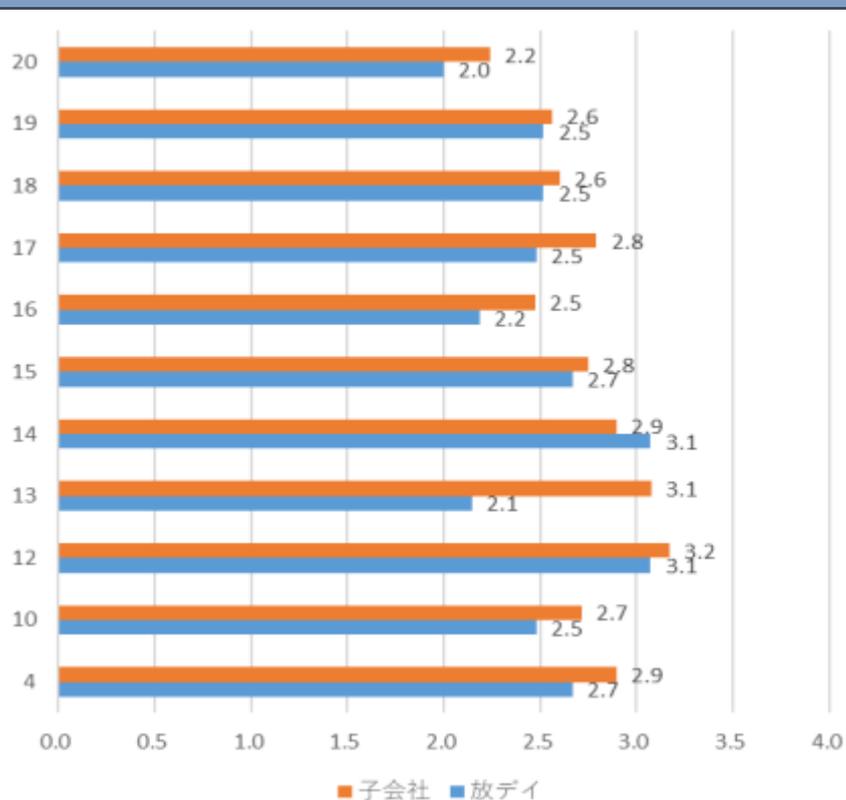


⑫ 基本的な要求伝達

⑲ 移動能力

結果② X放課後等デイサービスとY特例子会社での下位項目間の比較

WP（仕事の遂行能力）の下位項目の比較



⑳粗大運動

⑲手作業

⑱細かい作業

⑰仕事上の体力

⑯問題の報告

⑮安全対策

⑬仕事の安定度

⑫タイムレコード

⑩仕事への集中力

④仕事の量

結果③ 堀江(2022)のBWAP₂の因子による X放課後等デイサービスとY特例子会社での因子間の比較

	放課後等デイサービス群		特例子会社群		t 値
	M	SD	M	SD	
人とのかかわりスキル	2.46	0.32	2.17	0.23	3.10*
ライフスキル	2.71	0.25	2.76	0.32	-0.31
ハードスキル	2.55	0.34	2.86	0.20	-1.91
知的スキル	3.22	0.42	2.80	0.20	2.34*

* p < 0.05

- 《人とのかかわりスキル》領域と《知的スキル》領域が、放課後等デイサービス群の方が有意に高い結果を示した。
- 《ライフスキル》領域が 0.05 点、《ハードスキル》領域が 0.31 点、特例子会社群の方が高かった。

考察 結果の概要①

- 放課後等デイサービス群と特例子会社群で比較を行った結果、BWAP2の4領域の得点において、IR、CO、WPの領域の平均得点は放課後等デイサービス群の方が高かった。
- これらの領域においてx放課後等デイサービスの児童生徒がy特例子会社に就職するのに必要な能力が有している。学校では重要視されているアカデミックスキルではすべて満足できる能力を持っていることと、それらのスキルが比較的到低くても特例子会社で働いている人が多いということが考えられる。

考察 結果の概要②

- 最もライフスキルの項目が含まれているHAは特例子会社群の方が高かった。
- 「衛生面」「身だしなみ」「時間順守」「モチベーション」「出勤率」「食事のマナー」及び「トイレのマナー」の6項目の平均得点は特例子会社の方が高かった。
- 「出勤率」、「モチベーション」が低い原因として、仕事の体験がないことが窺える。学齢期から仕事の体験をさせることでモチベーションを高めることができる。

考察 結果の概要③

- COとWP領域に関して、得点が放課後等デイサービス群の方が高いにもかかわらず、下位項目の中に特例子会社群より低い項目があった。
- COでは「基本的な要求伝達」と「移動能力」がある。
- WPでは、「問題報告」や「仕事上の体力」「仕事の安定度」等がある。
- これらの項目が働くうえで大切なライフスキルであるが、X放課後等デイサービスの児童生徒がY特例子会社で働くのにまだこれらのスキルは十分に身につけられているとは言えない。
- これから放課後等デイサービスにて指導に取り組むべきであると考える。

考察 結果の概要④

- 堀江（2022）の因子分析により再カテゴリ化された4因子の領域で比較を行った。
- 結果から、《ライフスキル》領域《ハードスキル》領域は特例子会社群の方が高く、《人とのかかわりスキル》と《知的スキル》の因子よりも、《ライフスキル》と《ハードスキル》の方が特例子会社に就職するのに必要だが、放課後等デイサービスの児童生徒では指導に通じて身につけていきたいスキルであると考えられる。

考察 結果の概要⑤

- 今後の指導では、アカデミックスキルよりも実体験を通じてライフスキルを身につける指導が重要であり、個々の興味関心や得意分野に合わせた指導が求められ、学齢期でインターンシップや職業体験を行うことが望まれる。

考察 放課後等デイサービスにて実施すべき ライフスキルの指導について

- 研究の結果に基づいて、今後放課後等デイサービスで実施するライフスキルにおける指導内容について検討した。放課後等デイサービスの BWAP²の結果の各領域内で差があった項目を見極め、成人期に就労の際に発達障害があっても特例子会社などで働く場合、放課後等デイサービスで身につけておくべきライフスキルの項目をピックアップした。
- それは、移動能力、金銭管理、衛生面と身だしなみ、時間管理、モチベーション、コミュニケーション能力の6つのスキルであった。

THANK
YOU

康一焯

evakang991226@toki.waseda.jp
